

アサリ養殖試験の取り組み支援

始良・伊佐地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

近年の漁業を取り巻く環境は、資源の減少、魚価の低迷、高齢化等、厳しい状況にある。漁業者の所得向上を図るため、近年、国産品の需要が高まるアサリに着目し、鹿児島湾奥の閉鎖的で、静穏な海域特性を利用した養殖技術の導入を推進する。

【普及の内容・特徴】

アサリ養殖試験は錦海漁協アサリ研究会により、始良地区水産業改良普及協議会の助成事業を活用し実施された。

(独)水産総合研究センター養殖研究所が開発した「網袋式天然採苗」+「海面垂下式養殖」技術及び当技術を実証した三重県鳥羽磯部漁協の取り組み例を参考に養殖試験を実施した。

天然採苗を目的に、4種類の基質を入れた網袋(40cm×50cm、目合い5mm)を設置し、網袋内に着底したアサリの採苗個数や成長、生残等のモニタリング調査を実施した(図1～2、表1)。

また、加治木港沖合において、天然採苗した平均殻長21.0mmのアサリ50個体を平成25年12月1日にコンテナカゴに収容し、水深1m下において、垂下式養殖試験を実施した。

表1 天然採苗用網袋の設置状況

設置日	場 所	設置個数 (個)	基 質 の 種 類 毎 の 設 置 個 数(個)			
			石(粒径13mm) +貝がら	石(粒径13mm) +ケアジェル	石 (粒径13mm)	石 (粒径26mm)
H25. 6. 7	重富海岸	26	10	10	3	3
	重富漁港外	10	5	5	-	-
H25. 11. 14	白浜	60	60	-	-	-
	重富海岸	90	90	-	-	-
	日木山川河口	30	30	-	-	-

【成果・活用】

天然採苗を目的に6月に重富海岸に設置した網袋の中は、9～11月にかけて肉眼視できるサイズに成長したアサリの入網が確認できた。基質毎にみると「石+貝がら」が最も効果が高く、最大で1袋に65個、平均で40個のアサリが入っていた(図3、4)。網袋のアサリはへい死はほとんどみられず、順調に成育し、翌年の1月には平均殻長23mmに成長した(図5)。

一方、11月に設置した網袋ではH26. 3月現在、肉眼視できるサイズのアサリは確認されていない。アサリは春、秋の年2回の発生群があることが知られているが、年間を通したアサリの採苗個数のデータは現在のところ得られていないことになる。

垂下式養殖については、1ヶ月に1回の割合でカゴの交換等のアサリの飼育管理を行っているが、開始後4ヶ月の殻長は24.7mm、生残率は96%で順調に成長している。

本養殖は地場で生まれたアサリ稚貝の安定的な大量採苗が大きな課題であり、今後、採苗場所の選定等、効率的な採苗方法について改善していくことが必要である。



図1 養殖試験の調査場所



図2 天然採苗用に設置した網袋



図3 網袋の中で採苗できたアサリ

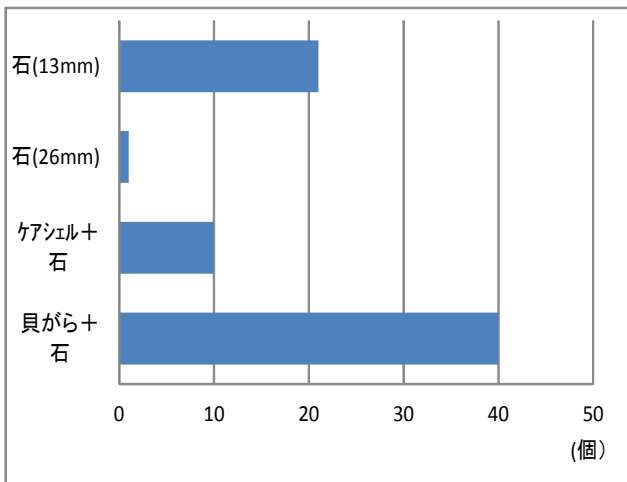


図4 網袋内で採苗した秋発生群のアサリの個数（平均値）

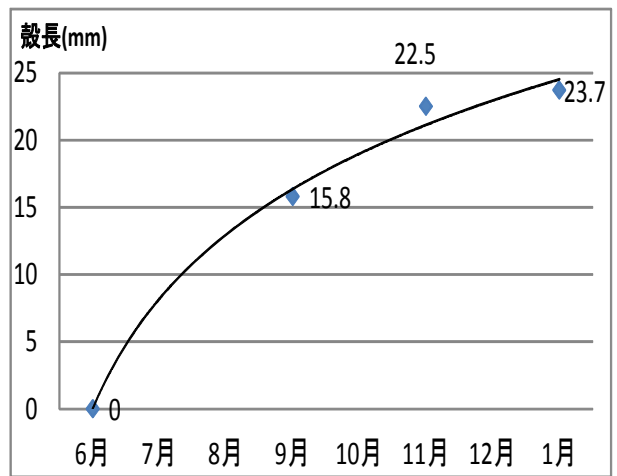


図5 網袋内のアサリの成長